

歩こう会 歴史のアルバム 第38回

平成 10 年 (1998 年) 6 月 23 日 (火)

奈良 鏡作神社、法楽寺、唐古・鍵遺跡を散策 参加者 33名



大和・山の辺探訪物語

大和・山の辺探訪物語では、地域の持つ様々な資源を語りながら、歩いて楽しむ「歩く旅」を企画しています。各エリアには「山の辺の道」「大和川」「唐古・鏡遺跡」という地域を代表する資源があり、それぞれ地域を次の3つのゾーンとして設定しています。

山の辺ゾーン・・・大和国時代の遺跡や山岳の自然を中心とするゾーン
 大和川ゾーン・・・大和川流域の歴史や文化を中心とするゾーン
 鏡ゾーン・・・古墳時代を代表する歴史資源として知られる唐古・鏡遺跡を中心とするゾーン

◆シンボルマークについて
 エリアの代表的な資源である「大和国時代の山岳と山の辺の道」「大和川流域の自然のシンボル大和川」「唐古・鏡遺跡から出土した土器に刻み込まれた縄文時代の模様」をモチーフに、シンボルマークをデザインしています。

唐古・鏡遺跡 唐古・鏡遺跡は、奈良県大和郡唐古町に位置する古墳時代の古墳群です。1970年代、奈良県教委によって調査が行われ、古墳群の規模が明らかになりました。この遺跡では、古墳群の中心となる大和川と、古墳群の周辺に広がる自然環境が、古墳群の歴史的背景を物語っています。また、古墳群では、古墳群の中心となる大和川と、古墳群の周辺に広がる自然環境が、古墳群の歴史的背景を物語っています。

